

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0873900385		
法人名	社会福祉法人 聖隷会		
事業所名	グループホーム 千代田の里 (ふきのとう)		
所在地	茨城県かすみがうら市 495-1		
自己評価作成日	平成 30 年2月 5 日	評価結果市町村受理日	平成 30 年5月 2 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&Ji_gvosvoCd=0873900385-00&PrefCd=08&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成 30年 3 月6 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

都市化の進行と、自然豊かな環境を併せ持つ地域にあり、隣接には系列の医療法人の介護老人保健施設や保育園があります。リビングからは保育園児が元気に過ごす様子が見え、保育園との交流事業により楽しいひと時を過ごすことも出来ます。又関連施設には病院や介護老人保健施設、介護老人福祉施設等の事業所も多数あり、希望に応じたサービスが提供できるようになっております。特に医療法人からは医療に関するバックアップや、認知症に関する専門治療も受けられます。グループホームも多数あり、お互いに切磋琢磨しサービスの向上を目指し、定期的に勉強会を開催し知識の吸収や技能の向上に努めております。地域には介護施設が多数ありますが、地域に根差した地域の皆様に選んでいただけるグループホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は閑静で自然豊かな環境にあり、同一法人の介護老人保健施設や保育園が併設されている。食堂兼居間からは常に子供達が遊ぶ様子が伺える。管理者と職員は、法人の理念の他に「里の目標」を掲げ、利用者一人ひとりのニーズに合わせ、家庭的な心のこもった支援に努めている。管理者と職員は、慣れ親しんだ関係や環境で利用者が生活できるよう、近隣の小学校の運動会や文化祭に参加したり、地域の祭りに招待されて見学に行くなど、地域住民と積極的に交流が図れるよう努めている。また、法人では病院も経営しており、医療面においても利用者の健康状態に応じたサービスの提供ができるため、利用者や家族等の安心に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内の、誰もが見える場所に、基本理念や事業所の目標を掲示し、朝礼や終礼において復唱し、共有している。	法人の理念の他に「里の目標」を掲げ、朝礼や終礼時に唱和することにより、職員一人ひとりが意識して日頃の支援に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会や、社会福祉協議会に加入しております。地区内の小学校の運動会や文化祭への参加やかすみがうら祭の見学をしております。又日曜日には隣接道路の清掃作業の取り組みをし、地域の一員になれるように努めております。	毎週日曜日に、隣接道路の清掃作業を自主的に利用者と職員で行っている。近隣の小学校の運動会や文化祭に参加するほか、秋のかすみがうら祭へも招待を受け見学に行くなど、外出支援を兼ねて地域の方々と交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や、介護相談員さんを通じて、地域も方々の理解を頂き、介護相談等で地域貢献を図りたいと思います。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催しております。委員には地元の区長、民生委員、学識経験者、ご家族の代表、利用者の代表、行政で構成し意見の交換をしております。貴重なご意見をサービスの向上活かしてまいります。	定期的開催し、事業所からの報告のほか、地域の方から、災害時には近隣にヘリポートがあり、活用できるのではないかと情報をもらい、災害対策に活かそうと検討するなど、委員から出た意見について話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター・介護相談員・福祉事務所等々の交流により、情報の収集を図りながらサービスの向上を目指します。	生活保護の方の受入れや相談など、日頃から連携が取れており、信頼関係が構築されている。また、介護相談員の訪問により、利用者が安心して生活ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の無い介護の指針を掲示し、職員が理解し拘束の無い介護をしております。やむを得ない場合は、ご家族の同意を頂いております。玄関は施錠せず、玄関の出入り時にはチャイムが鳴り安全確保に努めております。徘徊する方がいますので、状況により施錠することがあります。	法人内での勉強会に里長や管理者が参加し、事務所や各ユニットの台所付近にポスターや注意事項が掲示され、職員は日々意識して支援に活かしている。やむを得ず身体拘束をする場合に備えた書類は整備されているが、個人記録に記入するに留まっており、書類は使用されていない。	やむを得ず身体拘束をする場合に、個人記録だけでなく、同意書や経過観察記録を活用することを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に人権擁護を基本に、全職員で虐待防止に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これまでに成年後見制度を活用したことがあります。傘下法人の講習会に参加しながら権利擁護に努めて参ります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に、契約書等の内容や施設の概要を説明し、納得の上で、契約をして頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口と担当者の配置や、第三者委員会の設置と外部苦情申し立て機関を設置しております。ご家族の意見を大切にす為意見の言える環境づくりに努めます。	週数回の面会をはじめとし、家族の面会が多く遠方でも年2～3回あるため、日頃から話しやすい関係が構築されており、面会の際に意見や要望を聴いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議や、ユニット毎の職員会議により意見交換を行い、運営に反映させていきます。	ユニット毎の会議で話し合ったことを実践し、さらに職員会議で共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則・給与規定により職場環境・条件の整備努めております。介護職員処遇改善交付金の活用により向上心を持っての就労、研修会参加によるスキルアップに努めて参ります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内には、研修委員会が設置され、それぞれの段階に応じた研修会や、上級救命講習会が開催されております。法人傘下の同業種に於いても勉強会を開催しております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型介護サービス協議会への参加による意見交換、法人傘下の同業種との交流や学習を通じてサービスの向上に努めて参ります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に施設見学をして頂くことや、本人や家族との面談で、現状や困りごと等の把握で不安解消に努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の気持ちを思いやり、これまでの経緯や、不安・要望等を伺い、信頼関係が築けるように努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時に施設の概要や、サービスの内容を説明し、この施設で良いか、他のサービスを受けたいのか判断をして頂き、他のサービスを望まれる場合は他の関係機関と連携し他につなぐ様に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者のこれまでの生活から学ぶこともあり、利用者も喜んで過去の経験をお話してくれることにより信頼関係が深まっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活環境は、里だよりや毎月の近況報告によりお知らせしております。また必要に応じて電話連絡をしております。面会時にも近況をお伝えしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会・外出・外泊も自由にしていまして、通院も希望により、これまでのかかりつけの病院にする等、いづらかでも以前と変わらない環境で生活が出来るように支援しております。	家族と買い物に出かけている。友人が時々訪ねてきて、談話室などで面会し、職員は馴染みの関係が途切れないよう、雰囲気づくりなどに工夫をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、個別な関わり合いを見守り、支援することで孤立しないように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後に病院等に入院されても、施設への訪問をし、相談があれば相談に応じるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族関係者から、利用に至る経過を把握し、ケアプランに反映しています。困難な場合は、家族や職員で話し合い、本人の意向に沿えるように努めています。	職員と利用者は日頃からいろいろなことを話しており、「野菜の苗が欲しい」との意見と一緒に苗を買いに行くなど支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に事前調査をし、これまでの生活歴等の努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人らしく生活をして頂くことを基本に、アセスメントシートを作成し、心身の状況を記録し、現状の把握に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月会議を開き、利用者・家族の意向や職員の考え方をまとめ、現状に合った介護計画を作成しています。作成した介護計画は家族に説明し同意を頂いております。	ケアチェック表を使用した介護計画を立て、毎月各ユニットごとにサービス担当者会議を行い、状態に合わせた見直しを行い支援に活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	アセスメントシート、ケース記録は、各人ごとにファイリングし、情報の共有化による介護に努めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人らしく生活をして頂くことが基本です。法人傘下の事業者が多数あり、それらからの支援もいただけますので、柔軟なサービスが出来ていると思っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や、介護相談員さんとの情報交換、行政等との連携により地域資源の活用に努めております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望をお聞き継続した医療が受けられるように支援しております。また希望に応じて、歯科・眼科の訪問診療が受けられるように支援体制が出来ています。	利用者の1/3は家族が対応してかかりつけ医への受診を継続している。現在、人工透析の利用者があり、職員が付き添い、透析中も利用者の傍に居ることで安心して治療を受けることができている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置はありませんが、かかりつけの病院、協力病院と連絡しあい、日々の健康管理に努め、また受診しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、日々の生活状況を説明し、入院中はために訪問し、本人・家族・医療機関と連携し対応しております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針を作成しておりますが、重度化や終末期には、家族の意思を尊重し、医療機関と連携し対応しております。	看取りは行わないが、利用者の状態と家族の希望に応じて受入れ体制を取り、利用者ごとの手順書のようなもので職員と話し合いながら対応している。また、緊急時にはすぐに救急車で搬送できるように連絡体制ができている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人に於いて、上級救命講習会を全職員が受講し、AEDの取り扱い技能を習得しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いの、消火・通報・避難訓練を実施しております。災害対応の食糧・飲料水を確保しております。	夜間想定を含む避難訓練を行っている。各居室の入り口に個別に緊急時の対応が掲示され、災害時職員以外の人にも周知できるように体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライバシーに配慮し、優しく接するようにしております。個人情報の取り扱いについては、個人情報に関する指針に沿って、家族の同意の下で記録は保管しております。	誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに配慮している。利用者の希望に応じて、家族と相談しながら呼び方にも配慮している。個人情報に関する書類は鍵のかかる書棚で保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が理解できるようにお話し、思いや希望が叶うように支援しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人のペースで生活が出来るよう、また本人のやりたいことが出来るように支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみが出来るように支援しております。希望により訪問理容のサービスが受けられます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は同じテーブルで召し上がって頂いております。また食べこぼし等のサポートを行っております。食欲のないときには好きな副菜を提供しています	入居時に嗜好調査を行い、利用者の好みに合わせた献立作りを行っている。家族が煮豆や梅干しなど、個別に持参した好きな食べ物を提供している。月に1回お赤飯を炊いたり、誕生会にケーキを出している。通院時に外食を楽しんでいる。お酒の好きな利用者は晩酌を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立が出来ております。摂取量はアセスメントに記録しております。お茶の他にコーヒーやスポーツドリンクなどで対応しております		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後うがいを進めております。出来ない方や不十分な方には介助しております。入れ歯の利用者には毎晩洗浄しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録や、アセスメントシートを活用し個々の軌陸を把握し、時間やタイミングを見てトイレに誘導しております。オムツ利用者にもトイレ利用を促し、排泄の自立に向けた支援を行っております。	生活記録簿やアセスメントシートで一人ひとりの排泄パターンを把握して、出来るだけトイレで排泄が出来るよう支援している。夜間も状況に応じて、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の不足と運動不足にならないように配慮し、腹部マッサージなどの対応をしております。便秘が続く場合は、医師の指導による下剤の服用など個々に応じた対応をしております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の体調や希望に応じた入浴の支援をしております。入浴記録表を活用し入浴拒否者への対応や、体調不良時の清拭等個別に対応しております。また入浴剤を活用し気持ちよく入浴して頂けるこころがけております。	入浴は基本週3回、午前中となっているが、利用者の希望に応じていつでも入れるよう支援している。利用者の状態に合わせて、刺激を抑えた入浴剤やゆず湯で入浴が楽しめるような工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の馴染みの家具等を使用して頂くなど、日常的に安定した穏やかな心身状態が保たれるような環境に配慮しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報は、病院から頂いた薬情書をもとにチェックしています。投薬ミスや飲み残しが無いように細心の注意を払い、服薬後の確認をしております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴をもとに、能力に応じた役割などで、日常生活が楽しめるようにしております。日々のクラブ活動で、カラオケ・習字・ぬり絵・縫い物等個々の趣味に応じた楽しみ方が出来るようにしております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	早朝には、毎日外気浴をして頂いております。又季節ごとにお花見やドライブ、地域のお祭りなど時節に合わせた行事に参加しております。	毎日、早朝に外気浴を行っている。花見や地域の祭りなどに参加するほか、ユニット毎に毎月様々なところへ外出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて、一緒に買い物をするので対応しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を使用している方がいます、自ら電話等が出来ない方には職員が代行しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	隣接する保育園の園庭を囲むように建物が配置され、どの施設からも園児の遊ぶ姿が見え、利用者を楽しませてくれています。また花壇には草花や野菜が栽培されています。リビングには、利用者様の写真やクラブ活動の作品が展示されております。	玄関は施錠せず開放され、チャイムが鳴るようになっている。取り外し式のスロープがあり、車椅子の利用者が安全に外に出られるようになっている。廊下には手摺が設置され、車椅子の利用者がすれ違える広さがある。居間兼食堂は居室の中央に位置し、保育園児の遊ぶ姿が常に見える。壁には写真や雛人形の貼り絵・利用者の作品が掲示されている。浴室は浴用車椅子が設置され、脱衣所には利用者ごとのロッカーがあり、いつでも使用できるよう、常に着替えを用意している。浴室の前に畳の小上がりがあり、利用者が休憩や入浴の順番待ちに使用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日当たりがよく、園児の遊ぶ姿など外の風景がよく見えます。個室も自由に使用し、リビングにはテレビやソファがあり自由に利用できます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族と相談し、自宅で使用していた慣れているものを活用して頂いております。その人らしい居室づくりに心掛けております	居室にはそれぞれ馴染みの物を持ち込んでいる。家族が面会に来た際に使用する椅子なども置いて、一人ひとりに合った居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで、各所に手摺が節地されております。また利用者一人一人が自立した生活が出来るように配慮されております。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 千代田の里

作成日 平成 30年 5月 7日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6	やむを得ず身体拘束をする場合、書面での同意書作成と観察記録の作成	書面による同意書作成と観察記録の保存する	書類の作成保存をする	即時
2	3	認知症の人への理解や支援の方法を地域の方への周知	地域の方が困っている場合に何時でも相談を受ける体制が整っていることを周知すること	相談の体制は整っておりますが、周辺地域の方からの相談が無いので、運営推進会議等を通して広報に努めたい	即時
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。